

瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.4.30 時点)

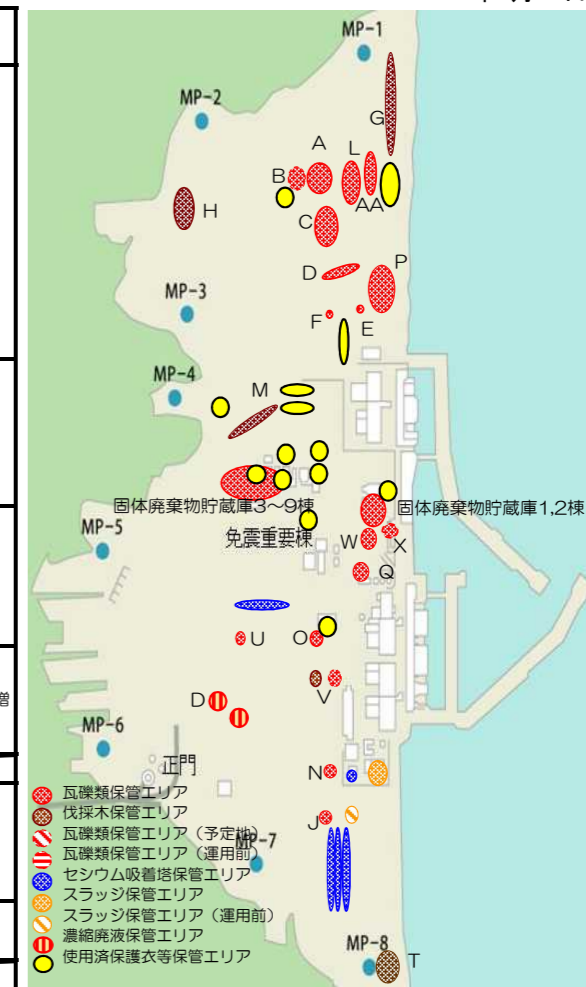
分類	保管場所	保管方法	エリア境界空間線量率 (mSv/h)	保管量	前回報告比 ^{※1} (2018.4.26)	変動 ^{※2} 理由	エリア占有率	保管量 ^{※3} /保管容量 (割合)	トピックス
瓦礫類	屋外集積 (0.1mSv/h以下)	B	屋外集積	0.01未満	2,800 m ³	0 m ³	—	85%	174800 / 250700 (70%) ・フランジタンク解体片 2018年4月末時点でコンテナ686基保管。 エリアP1コンテナ数: 580基 (2015年6月15日~) エリアAAコンテナ数: 106基 (2018年3月15日~)
		C	屋外集積	0.01未満	60,700 m ³	+700 m ³	①②③	96%	
		F2	屋外集積	0.01未満	6,400 m ³	0 m ³	—	85%	
		J	屋外集積	0.01	4,300 m ³	0 m ³	—	53%	
		N	屋外集積	0.01未満	4,500 m ³	0 m ³	—	45%	
		O	屋外集積	0.01未満	41,400 m ³	+800 m ³	①②	81%	
		P1	屋外集積	0.01	48,900 m ³	+300 m ³	①④	76%	
		U	屋外集積	0.01未満	700 m ³	0 m ³	—	100%	
	V	屋外集積	0.01	1,600 m ³	0 m ³	—	27%		
	AA	屋外集積	0.01未満	3,500 m ³	+1,700 m ³	⑤	10%		
シート養生 (0.1~1mSv/h)	D	シート養生	0.01未満	2,600 m ³	0 m ³	—	58%	36600 / 71000 (51%) ・エリアWでの車両解体(プレス等)が完了し受入開始。	
	E1	シート養生	0.03	13,600 m ³	0 m ³	—	85%		
	P2	シート養生	0.01	5,500 m ³	微増 m ³	—	61%		
	W	シート養生	0.04	6,900 m ³	+1,100 m ³	①③	24%		
覆土式一時保管施設、仮設保管設備、容器 (1~30mSv/h)	L	覆土式一時保管施設	0.01未満	12,000 m ³	0 m ³	—	100%	21900 / 27700 (79%) ・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。	
	A	仮設保管設備	0.20	6,900 m ³	微増 m ³	—	98%		
	E2	容器 ^{※4}	0.02	300 m ³	0 m ³	—	19%		
	F1	容器	0.01未満	600 m ³	0 m ³	—	99%		
Q	容器	0.08	2,000 m ³	0 m ³	—	32%			
固体廃棄物貯蔵庫	固体廃棄物貯蔵庫	容器 ^{※4}	0.02	8,900 m ³	+100 m ³	①③	20%	8900 / 45600 (20%) ・主な瓦礫類は、1~3号機工事等で発生した瓦礫類。 ・固体廃棄物貯蔵庫9棟の運用開始に伴い、保管容量(33,600m ³)増加。	
合計(ガレキ)				242,000 m ³	+4,700 m ³	—	61%		
伐採木	屋外集積 (幹・根・枝・葉)	G	屋外集積	0.01未満	25,200 m ³	微増 m ³	—	63%	96600 / 134000 (72%)
		H	屋外集積	0.01未満	31,700 m ³	0 m ³	—	74%	
		M	屋外集積	0.01未満	39,600 m ³	0 m ³	—	88%	
		V	屋外集積	0.01	100 m ³	0 m ³	—	2%	
	一時保管槽 (枝・葉)	G	伐採木一時保管槽	0.01未満	26,200 m ³	0 m ³	—	88%	37300 / 41600 (90%)
T	伐採木一時保管槽	0.01未満	11,100 m ³	0 m ³	—	94%			
合計(伐採木)				133,900 m ³	0 m ³	—	76%		
保護衣	屋外集積	容器	0.04	56,000 m ³	-3,700 m ³	⑥	79%	56000 / 71200 (79%) ・使用済保護衣等焼却量 4006t (2018年4月末累積) ・焼却灰のドラム缶数 872本 (2018年4月末累積)	
合計(使用済保護衣等)				56,000 m ³	-3,700 m ³	—	79%		

※1 100m³未満を端数処理しており、微増・微減とは100m³未満の増減を示す。
 ※2 主な変動理由: ①タンク関連工事 ②敷地造成関連工事 ③1~4号機建屋周辺瓦礫撤去関連工事 ④瓦礫を一時保管エリアAAに移動 ⑤一時保管エリアP1から瓦礫の受入
 ⑥焼却運転

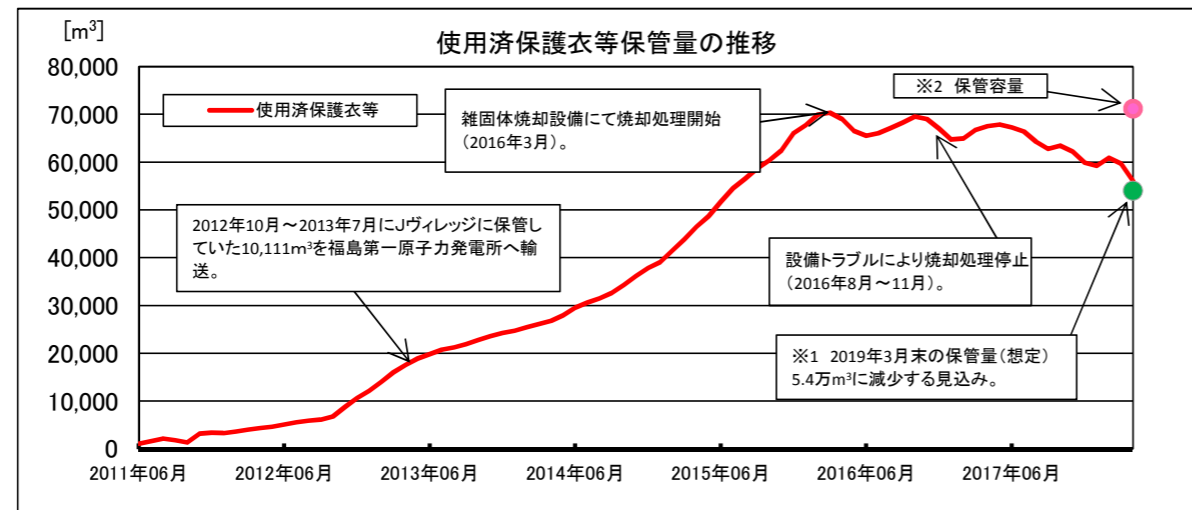
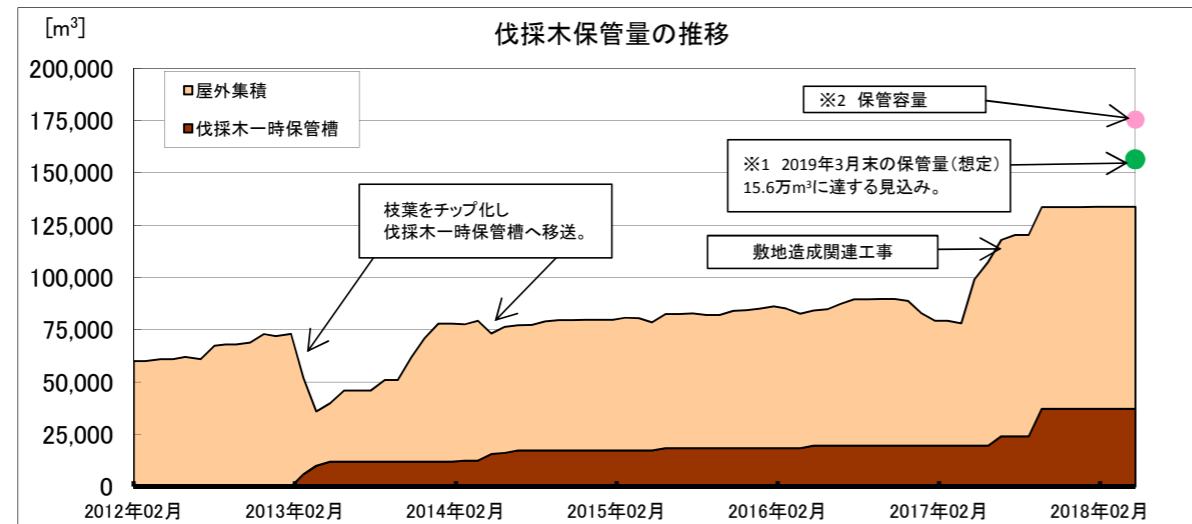
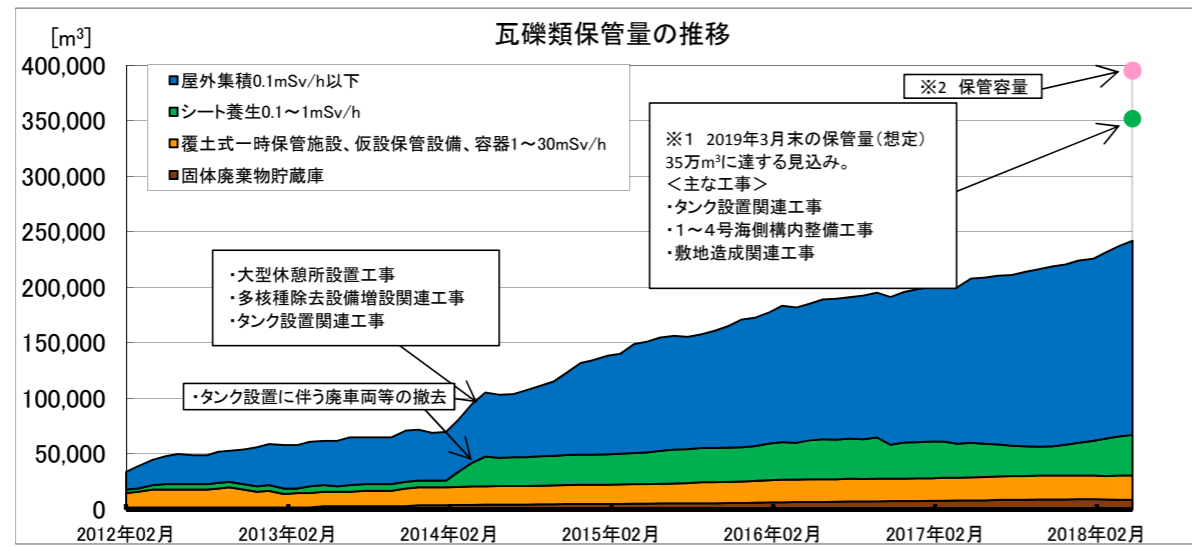
※3 端数処理で100m³未満を四捨五入しているため、合計値が合わないことがある。
 ※4 水処理二次廃棄物(小型フィルタ等)を含む。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.5.3時点)

分類	保管場所	種類	保管量	前回報告比 (2018.4.26)	保管量/保管容量 (割合)	トピックス	
水処理二次廃棄物	使用済吸着塔保管施設	セシウム吸着装置使用済ベッセル	767 本	0 本	3983 / 6368 (63%)	・吸着塔一時保管施設の増容量が認可(2015年12月14日) ・使用前検査完了(2017年5月26日)に伴う保管容量増(第四施設架台129塔分)	
		第二セシウム吸着装置使用済ベッセル	198 本	+2 本			
		多核種除去設備等保管容器	既設	1,470 基			+14 基
			増設	1,263 基			+21 基
		高性能多核種除去設備使用済ベッセル	74 本	0 本			
		多核種除去設備処理カラム	11 塔	0 塔			
モバイル式処理装置等使用済ベッセル及びフィルタ類	200 本	+1 本					
廃スラッジ貯蔵施設	廃スラッジ	597 m ³	0 m ³	597 / 700 (85%)	・除染装置の運転計画は無く、新たに廃棄物が増える見込みは無い。 ・準備が整い次第、除染装置の廃止について実施計画の変更申請を行う。		
濃縮廃液タンク	濃縮廃液	9,364 m ³	+11 m ³	9364 / 10700 (88%)	・タンク水位の変動は、計器精度±1%の誤差範囲内。(現場パトロール異常なし) ・水位計0%以上の保管量: 9264 [m] タンク底部~水位計の保管量(DS): 約100[m]		



瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の管理状況(2018.4.30時点)



※1 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管量(想定)は、実施計画(2018年3月26日認可)の予測値を示す。
 ※2 瓦礫類・伐採木・使用済保護衣等の保管容量は、運用上の上限を示す。

水処理二次廃棄物の管理状況(2018.5.3時点)

